

令和元年6月7日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02882

研究課題名(和文)伊勢神宮：近現代の軌跡をたどる

研究課題名(英文)The Ise Shrines: A Modern Trajectory

研究代表者

Breen John (Breen, John)

国際日本文化研究センター・総合情報発信室・教授

研究者番号：90531062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は1)伊勢の近世的空間を研究することによって新たな伊勢像が見出せたこと。2)昭和戦前期の神宮大麻(伊勢神宮のお札)というモノを研究することにより、伊勢神宮と国民との関係に新たな光をあてることができたこと。

1)伊勢神宮は外宮と内宮が大事だが、明治前までの参拝者(多くは男性)にとって古市遊郭こそ中核的な存在であったこと、また外宮と内宮が常なる歪み合いに注目し伊勢独自の聖性を指摘できた。
2)中世期からあった神宮大麻は、近代に入って大きく変貌し、新たな聖性、政治性、商品性を付与されたことや、昭和期に入って、1300万もの神宮大麻が全国に浸透していった、その葛藤に満ちた過程を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伊勢神宮は今日でも最大級の聖地だが、研究は少ない。明治前までの伊勢は、参拝者が外宮内宮よりも古市遊郭を目指して旅だった、さらにおかげ参りの年に伊勢が奇跡の場に変身してしまった、そして伊勢の聖性そのものがせめぎ合いの対象であった、などの史実はこれまでにない伊勢像を語る内容である。
神社本庁が今日頒布する神宮大麻は伊勢神宮の欠かせない収入源で、誰もが馴染みあるものだが、歴史的研究はこれまででなかった。その神宮大麻が昭和初年には全く新しい(そして今日では考えられない)政治性、聖性、商品性を付与され、伊勢神宮と国民をつなぐ最重要な装置となった事実は、昭和初年の社会の末端に新たな光をあてる。

研究成果の概要(英文)：The results of this research are two-fold. They concern 1) a new understanding of pre-modern Ise that draws on a spatial approach; and 2) new light on the connectivity between the Ise shrines and the modern Japanese populace through a study of Ise amulets.

1) Ise comprises two sacred sites, the Outer and Inner shrines. My research shows 1) that for pre-modern pilgrims (the majority of whom were men) it was rather the Furuichi pleasure quarters that constituted Ise's center, and 2) that the two shrines were in constant conflict over the nature of the sacred in Ise.

2) Ise amulets first appeared in medieval Japan, but this research shows that they were transformed in the modern period acquiring new sacred, political and commercial qualities, and that, distributed annually in their millions throughout Japan, they served as a vital link between the Ise Shrines and the Japanese people.

研究分野：日本史

キーワード：伊勢 神宮 大麻 古市 遊郭 御師 奇跡 天皇制

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景だが、2012年から始まった課題番号 24520791 の研究「神都物語：伊勢の近現代史（1869年 - 2013年）」を2015年に終えた時点で、多くの未解決の問題が残っていることを強く自覚していた。とりわけ、江戸後期・明治初年のお伊勢参りとお伊勢参りのジェンダー問題、昭和戦前期にみる全国神職会の組織・活躍と伊勢神宮、そして戦後における伊勢神宮に見る森林管理などの環境問題の考察が興味深いかつ必要な課題だと痛感した。

2. 研究の目的

当初の研究目的は次の三つの課題に絞っていた：1)「近世的伊勢参宮の解体過程と近代的伊勢参宮の再編成」；2)「大正・昭和（前期）における神宮の宣伝装置：神宮大麻の頒布」；3)「戦後の神宮と環境問題：神道の行方」。それぞれに一年をかけて、順を追って調査と執筆に着手することに決め、いずれの課題も和文・英文の研究発表、学術論文という形で世に出すつもりであった。ところが、実際には、当初の研究目的が実現可能でないことに気づき、「戦後の神宮と環境問題」を断念せざるを得なかった。そこで、1)伊勢の近世的・近代的空間とお伊勢参り、2)昭和戦前期の神宮大麻問題、というふうに研究目的をより現実的なものに再設定した上で、その目的に合った方法論を練った。

3. 研究の方法

前者(1))に関しては、明治期を生きた、ある神宮神職の回想録から刺激を受け、古市つまり伊勢の遊郭という空間に注目した。伊勢の近世的空間の中核をなすのは、外宮でも内宮でもなく、まさに古市だと大胆な仮説をたててみた。近世の地図、参宮日記、文学、画像資料などを調査し、伊勢の古市遊郭とお伊勢参りとの関係性を探った。さらに、それを踏まえ、お伊勢参りが基本的に男性的な営みではないかと論じつつ、女の旅日記、地元の資料などを調査し、女性と伊勢との関係も探った。一方で、近世伊勢独自の聖性(外宮と内宮の関係、奇跡の場としての伊勢など)をめぐるせめぎ合いにも迫った。こうした近世的伊勢の空間的特徴を近代にまで辿ることにした。古市を中核とする近世の空間が近代になって抜本的に変貌したことを示そうと、近代の地図、日記、画像資料を活用し、外宮と内宮のせめぎ合いの解消、奇跡の場としての伊勢の終焉を論じた。そして伊勢の御師などの神職、古市の茶くみ女、全国の参宮客など関連する行為者を常に視野に入れることにした。なお、地元の郷土史家との対話が常に重要な研究方法であったことを記しておく。

後者(2))に関しては、欧米の社会学者によるモノ論を活用し、神宮大麻、つまり伊勢神宮が製造し、地方に運搬して販売するお札、に焦点を絞った。大きな刺激となったのは、統計が示す、昭和戦前期の神宮大麻の年間頒布数である。昭和初期には600万体的大麻が頒布されていたが、昭和十年代に入るとそれが1300万にも上った。まずアパデュライの「社会誌」的アプローチを採用し、昭和初期を事例に一神宮大麻の、伊勢における製造から地方での消費までのプロセスを、たどった。そしてコピトッフの「文化誌」的アプローチにも訴えて、長い歴史的スパンをとって神宮大麻がどのような力学をもって日本の文化に根を張っていったのかを問い詰めた。神宮大麻の「社会誌」および「文化誌」を語る上では、常にそのモノの聖性、政治性、商品性に注目しその移り変わる姿を突き止めようと試みた。そして大正・昭和期のとおりわけ内務省の官僚、伊勢神宮の神職、地方の官僚、神職会の行為をも常に視野に入れていた。この研究を実施する上では、伊勢神宮の神職と伊勢の郷土史家および岡山、愛知などの県立図書館のスタッフにアドバイスを求め、また貴重な資料の提供をいただいた。こうした知的交流

は方法の上では極めて重要であったことを付け加えておく。

4. 研究成果

「伊勢神宮：近現代の軌跡をたどる」の主な研究成果は、次のように纏めることができよう。

(1) に関してだが、まず伊勢など聖地の研究は、空間的なアプローチが大変有意義であることを明らかにした。そうしたアプローチがまず示したのは、伊勢における古市遊郭が極めて重要な空間であったこと、そして参拝者(その大多数が男性)を引き付けたのは外宮・内宮の他にも古市があったこと。さらに、近世の伊勢を空間的に見た場合、六十年毎に発生したおかげ参りの年に伊勢の空間が大きく変わったことを明確にできた。その年に限っては多くの女性(および子供)が参拝した事実、そして伊勢が奇跡の場に変貌してしまった事実を示した。さらに、伊勢の聖なる空間にメスを入れ、外宮の神職と内宮の神職の常なるいがみ合いにも光を当てた。近代となるや伊勢の遊郭が中核的な位置付けを失い、また奇跡の場としての伊勢も立ち消え、聖性をめぐるそのせめぎ合いも解消されたことは、伊勢が文明開化によりふさわしい空間に変貌していく必然的な過程でもあった、と論じた。なお、これまでの研究が伊勢の空間、伊勢の遊郭、伊勢の聖性を取り上げてこなかったことを記しておく。

一方の(2)に関しては、神宮大麻の歴史的研究はこれまではほとんどなされてこなかった。ただ、少なくとも昭和戦前期における神宮大麻が極めて重要な社会的意味を持ち、天皇と皇后の御真影および教育勅語の謄本と同列においても良いモノではないかとあえて結論づけてみた。大正末期から昭和初年にかけては、神宮大麻は新たな政治性、聖性、そして商品性を付与され、9割の世帯へと浸透していく力学を示した。とりわけ、神宮大麻をめぐる新たな言説の作成、神宮大麻を対象とする新たな儀礼の創出が重要な意味を持つが、強制的頒布を抜きにしては、神宮大麻が全国に浸透していく過程は理解できないことを論じた。

以上のような研究の成果は、数多くの発表(英語と日本語両方)および複数の論文(英語と日本語両方)をもって国内外に向けて発信することができた。そのインパクトを図ることは容易でないが、共著の *A Social History of the Ise Shrines* は欧米では高い評価を得ているし、また日本語論文が掲載された『カミとホトケの幕末維新』および『近代天皇制と社会』はどちらも特に学会から注目を浴びている。

展望としては、伊勢講の研究が必要だと痛感している。近世・近代の伊勢神宮の地方との関係の形成を理解する鍵はまさに伊勢講にあると考えようになった。とりわけ幕末・明治の変革期における伊勢講の動向を捉えた研究が必要だろう。明治期には近世と全く異なる伊勢信仰が地方に広まっていくが、伊勢講の役割は大きかったはずである。また、例えば神宮大麻が昭和戦前期に全国へと浸透していくことを示すことができたが、その過程においても地方の伊勢講が何らかの働きをしたと思われるもおかしくない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- (1) ジョン プリーン「天皇と国民と神宮大麻：モノから歴史を考える」『歴史の理論と教育』(査読あり) 150/151 (2019年)、21-30頁
- (2) ジョン プリーン “Amaterasu’s progress: the Ise shrines and the public sphere of postwar Japan.” (査読なし) *The Japan Society Proceedings*, 152 (2016), pp.40-58

- (3) ジョン ブリーン「知らなかった聖地のルーツ」『一個人』(査読なし)7月号(2016年) 46-49頁
- (4) ジョン ブリーンと島藺進「伊勢神宮と国家儀礼: その歴史と政治を巡って」(査読あり) 『世界』883号(2016年6月)、197-206頁

〔学会発表〕(計25件)

- (1) ジョン ブリーン「近代天皇制と大麻問題: モノから歴史を考える」日文研共同研究会: 日本における法・政治・宗教の相互関係—近代世界・現代世界との比較の視座による研究、2019年3月5日
- (2) ジョン ブリーン「伊勢にみる性と聖」報道懇談会、日文研、2019年2月27日
- (3) ジョン ブリーン “The Meiji Restoration: An Ise perspective,” History Faculty, SOAS, London, 2019年1月19日
- (4) ジョン ブリーン「伊勢神宮の明治維新」『カミとホトケの幕末維新』刊行記念連続講座第3回、丸善、京都2018年12月1日
- (5) ジョン ブリーン “Inventing Ise in Meiji Japan: Priests, Pilgrims and Prostitutes,” Revisiting Japan’s Restoration: Inter-regional, Inter-disciplinary and Alternative Perspectives Conference, National University of Singapore, Singapore, 26-28 September, 2018
- (6) ジョン ブリーン「明治初期の宗教政策をめぐって」春秋社主催ワークショップ: 近代日本宗教史講座、キャンパスプラザ京都、2018年9月7日
- (7) ジョン ブリーン “On “Shinto” and the State in Meiji Japan: The Ise Shrines” Symposium Japan Past & Present: Society, Thought & Religion in Meiji Japan, Ricci Institute for Chinese-Western Cultural History and Axel and Margaret Ax:son Johnson Foundation, University of San Francisco, 5 March 2018
- (8) ジョン ブリーン “The pleasures of pilgrimage: experiencing Ise in 19th century Japan.” 21st Century Shinto Studies, Daiwa House, London, 6 February 2018
- (9) ジョン ブリーン “Spaces sacred and places of pleasure: 19th century Ise.” Cultural Circulation in Asia: Narrative, Human and Visual Flows, 6th IMAP/IDOC Japanese Humanities Symposium on Premodern Japanese Culture, Kyushu University, Faculty of Humanities, 2018年2月2日
- (10) ジョン ブリーン「変容する聖地: 明治維新に見る伊勢」ギャラリー思文閣、京都 2107年12月24日
- (11) ジョン ブリーン「伊勢神宮の幕末維新时期」ワークショップ: カミとホトケの幕末維新: 交錯する宗教世界、龍谷大学、京都 2017年10月14日
- (12) ジョン ブリーン「昭和戦前期の天皇と社会: 神宮大麻の観点から」名古屋歴史科学研究会大会天皇制と伊勢神宮、愛知大学、名古屋、2017年6月10日
- (13) ジョン ブリーン「天皇と大麻: モノから見た昭和戦前期」近代天皇制と社会研究班(京都大学人文科学研究所) 京都大学人文科学研究所、2016年12月17日
- (14) ジョン ブリーン “Ise’s modern transformations or the pleasures of pilgrimage in 19th century Japan,” 23rd Nichibunken International Symposium: Japanese studies down under University of Otago, New Zealand, 2016
- (15) ジョン ブリーン “Travels in Ise or the pleasures of pilgrimage in 19th century Japan” *Japan: Tourism as a path to knowledge and development*, 12th National 3rd International Conference of

the Association for Japanese Studies in Spain, Facultad de Comercio y Turismo de la Universidad Complutense de Madrid, Madrid, 2016 年 10 月 5 日

- (16) ジョン ブリーン 「戦後の伊勢神宮の公共性」20 世紀と日本研究会、伊勢市、2016 年 8 月 19 日
- (17) ジョン ブリーン 「近代移行期に見る伊勢: 参拝体験の再構築」ワークショップ: 近代後期における宗教空間: 課題と遠望、龍谷大学、京都、2016 年 7 月 30 日
- (18) ジョン ブリーン 「転換期の伊勢: 近世と近代について」伊勢講座 2016 第 2 回、伊勢志摩さいこう会、三重テラス、東京、2016 年 7 月 7 日
- (19) ジョン ブリーン “The Ise shrines: a post war history,” JSPS Summer Programme, 総研大、葉山、2016 年 6 月 16 日
- (20) ジョン ブリーン “Pilgrims, priests and the pourers of tea: on mid-nineteenth century Ise,” (Panel: Toward Restoration? Japanese Religion during the Edo-Meiji Transition) AAS, Seattle, USA, 2 April, 2016
- (21) ジョン ブリーン 「幕末維新期のお伊勢参り: 庶民と天皇と伊勢神宮の近代化」霊山歴史館: 第 7 1 回維新土曜トーク、京都、2015 年 12 月 5 日
- (22) ジョン ブリーン 「明治天皇と伊勢神宮: 天皇による史上初の参拝とその遺産」アスニーセミナー、京都市生涯学習総合センター、京都、2015 年 11 月 13 日
- (23) ジョン ブリーン 「古市: 伊勢にみる歡樂の系譜」近代天皇制と社会研究班(京都大学人文科学研究所) 伊勢市中の町麻吉旅館にて、2015 年 9 月 18 日
- (24) ジョン ブリーン “Amaterasu’s progress: the Ise shrines in the public sphere of post war Japan,” The 2015 Carmen Blacker Lecture, Japan Society, Swedenborg Hall, London, UK, 20 July, 2015
- (25) ジョン ブリーン “Amaterasu’s progress: the Ise shrines in the public sphere of post war Japan,” The 2015 Carmen Blacker Lecture, Sainsbury’s Institute for the Study of Japanese Arts and Culture, Norwich, UK, 17 July, 2015

〔図書〕(計 6 件)

- (1) ジョン ブリーン 「明治維新に見る伊勢神宮: 空間的変貌の過程」岩田真美、桐原建真編 『カミとホトケの幕末維新』法蔵館、2018 年、229-255 頁
- (2) ジョン ブリーン 「近代天皇制と大麻問題」高木博志編 『近代天皇制と社会』思文閣 2018 年、405-432 頁
- (3) ジョン ブリーン “Amaterasu’s progress: the Ise shrines and the public sphere of postwar Japan.” In Hugh Cortazzi ed., *Carmen Blacker: scholar of Japanese religion, myth and folklore: writings and reflections*. Renaissance Books, 2017, pp. 396-412
- (4) ジョン ブリーン とマーク テーウエン. *A Social History of the Ise Shrines: Divine Capital*. Bloomsbury, 2017, pp. 302
- (5) ジョン ブリーン 編 『変容する聖地 伊勢』思文閣、2016 年、340 頁
- (6) ジョン ブリーン 「戦後の伊勢: プリントメディアにみる神宮と式年遷宮」ブリーン編 『変容する聖地 伊勢』思文閣、2016 年、276-95 頁。

〔産業財産権〕

〔その他〕

6．研究組織

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。